



クローズアップ!!

# 放射線治療

近年、がんの治療法のひとつである「放射線治療」は、目覚ましい進歩を遂げ放射線治療の成績は向上しています。

高精度な治療は、放射線治療専門医をはじめ、診療放射線技師、看護師、介護スタッフ、事務スタッフなどの様々な職種の人たちが支えています。

今回は、診療放射線技師と看護師の仕事をクローズアップし、安心・安全な放射線治療を実現するための当院の取り組みを紹介いたします。

## 診療放射線技師の取り組み

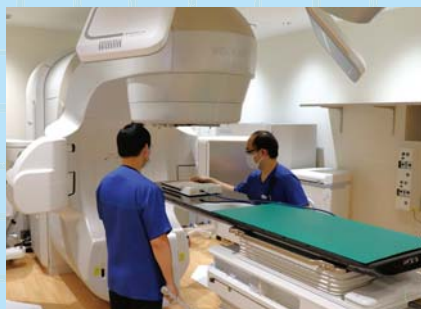
近年の高精度な治療では、ミリ単位での精度が求められるため、綿密な治療計画を作成する必要があります。そのために「放射線治療専門放射線技師・品質管理士」の資格をもつ技師が、様々な作業を行っています。



治療計画CT撮影を行います。



医師とともに治療計画を作成します。ターゲットの設定や線量分布の作成を行います。



治療計画の検証作業を行います。高精度照射のためには、たくさんの検証項目があります。

治療計画装置は正しく計算できている？  
治療計画通りに照射が可能？（治療前）  
患者セットアップおよび治療位置は正しい？  
治療計画通りに照射がされている？  
etc...

検証作業により、放射線治療の品質を保ち、それが治療成績にもつながっています。

欧米では、線量分布を作成するのは Dosimetrist（線量測定士）、治療計画の検証は Physicist（物理士）の仕事ですが、日本ではこれらを全て診療放射線技師が担当しています。

治療機器更新に伴い、今年より高精度治療の適応が増えると予想されます。更なる診療放射線技師の活躍が期待されます。

## 看護師の取り組み

「がん放射線療法看護認定看護師」を中心として、患者さんの不安払拭やセルフケア指導に努めています。

被曝は大丈夫なのかしら？

放射線は正常な細胞にも影響があるのかしら？

治療が目に見えないので実感がなくて不安



看護師は、医師の診察に同席し、医師の説明が理解しやすいよう助言したり、不安に対する介入をして放射線治療への意思決定を支援します。



治療計画の目的や方法をわかりやすく説明したり、患者さんのセルフケアの指導も行っています。



手作りの治療予約表

照射中は、常に患者さんの状況を把握し何か問題があればすぐに対応できるよう努めています。照射後は、セルフケアの指導や有害事象の経過観察をし、最後までしっかりと治療を支えます。

## 前立腺がん患者への排泄日誌の取り組み

前立腺がんの放射線治療は、照射時には、便やガスが直腸に残らないこと、蓄尿量を一定にすることが大切です。そのため当院では、排便時間や便の状態、内服薬の服用状況などを毎日記載する「排泄日誌」を利用しています。

### 看護師

患者さんに排泄日誌の目的と記入方法を説明し、日常生活へのアドバイスをしたり、管理栄養士の助言を仰ぐこともあります。

### 診療放射線技師

CT画像で便やガスの残り具合、蓄尿量を確認し、排泄日誌に記入します。

### 医師

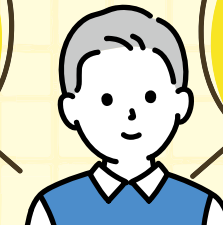
CT画像や排泄日誌を参考に、下剤や排尿症状に対する薬剤の処方や改善方法を提案します。

日付	排便	排尿	蓄尿量	ガス	その他
1/23	◎	◎	◎	◎	
1/24	◎	◎	◎	◎	
1/25	◎	◎	◎	◎	
1/26	◎	◎	◎	◎	
1/27	◎	◎	◎	◎	
1/28	◎	◎	◎	◎	
1/29	◎	◎	◎	◎	

排泄日誌

多職種が関わるための共有ツールにもなっています

排泄日誌がなかったら、最後まで治療を続けることはできませんでした



日誌をつけることで便秘も解消して、規則正しい生活になりました

排泄日誌を活用した患者さんからの声